

弥生時代の熔銅技術とその系譜

弥生時代の熔銅技術がかつてないほど具体的に議論されるようになりました。その技術は韓半島、中国につながるだけではなく、さらに西方へとその起源が追えるようにもなりました。そしてその技術が実験考古学的にも成果を上げているところも注目されます。

今回のシンポジウムでは、九州と近畿の出土資料から弥生時代の熔銅技術を論じ、韓国、中国、ユーラシア・ステップ地帯の資料を提示しながら、その起源に迫ります。

日時：2024年5月18日(土) 13:00~17:00

会場：愛媛大学メディアホール

(城北キャンパス・メディアセンター1階)

【プログラム】

趣旨説明

大陸と日本、つながる熔銅技術の要素
村上恭通 (AIC)

研究報告

近畿地域における弥生時代の熔銅技術とその系譜
清水邦彦 (島根大学)

遺構・遺物から見た北部九州の青銅器生産技術
井上義也 (春日市協働推進部文化財課)

韓半島における青銅器鑄造研究の現状と課題
金 武重 (韓国・岐陽考古学研究所)

黄河・長江流域の熔銅技術—商周時代を中心に—
丹羽崇史 (奈良文化財研究所)

ディスカッション

共催：愛媛大学先端研究院

愛媛大学アジア古代産業考古学研究センター

〒790-8577 松山市文京町3番 HP: <http://www.ccr.ehime-u.ac.jp/aic/>

Email: kotetsuAIC@gmail.com



土器炉で注湯する(故)高橋一夫氏(2008年 愛媛大学)



復元した土器炉、折れ羽口と青銅素材



ハンガリーの折れ羽口と柄杓形取瓶